

製品名: CD156c ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08222**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	70kDa

抗原情報

遺伝子名	ADAM10 ADAM10; KUZ; MADM; Disintegrin and metalloproteinase domain-containing protein 10;
別名	ADAM 10; CDw156; Kuzbanian protein homolog; Mammalian disintegrin-metalloprotease; CD156c
遺伝子 ID	102.0
SwissProt ID	O14672
免疫原	ヒト CD156c の内部領域から得られた合成ペプチド。

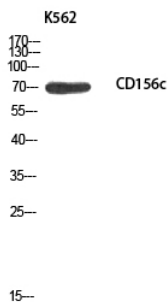
背景

ADAM メタロペプチダーゼドメイン 10 (ADAM10) ホモサピエンス ADAM ファミリーのメンバーは、接着ドメインとプロテアーゼドメインの両方を有する独自の構造を持つ細胞表面タンパク質です。この遺伝子は、TNF- α や E-カドヘリンを含む多くのタンパク質を切断する ADAM ファミリーのメンバーをコードしています。選択的スプライシングにより、類似のプロセッシングを受ける可能性のある異なるタンパク質をコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2016 年 2 月]、触媒活性: 広い特異性を持つエンドペプチダーゼ。、補因子: 1 つの亜鉛イオンと結合する。、ドメイン: システインスイッチモチーフに存在する保存されたシステインが触媒亜鉛イオンと結合し、酵素を阻害する。活性化ペプチドの放出に伴う亜鉛イオンからのシステイン解離により、酵素が活性化されます。、機能: TNF- α の膜結合前駆体を「76-Ala-|-Val-77」で切断し、成熟した可溶性形態にします。ヘパリン結合性上皮成長因子、エフリン A2 など、他のいくつかの細胞表面タンパク質のタンパク質分解による放出、およびアミロイド前駆体タンパク質 (APP) の構成的かつ調節的な α セクレターゼによる切断を担います。細胞内プリオンタンパク質の正常な切断に寄与します。細胞表面および放出された膜小胞における接着分子 L1 の切断に関与しており、小胞ベースのプロテアーゼ活性を示唆しています。Notch のタンパク質分解処理も制御し、神経新生の際の側方抑制を媒介します。、誘導: 変形性関節症の影響を受けていない軟骨において。、PTM: 前駆体はフーリンエンドペプチダーゼによって切断されます。、類似性: 1 つのディスインテグリンドメインを含みます。、類似性: 1 つのペプチダーゼ M12B ドメインを含みます。細胞内局在: 細胞膜に局在しますが、主にゴルジ体およびゴルジ体由来する放出された膜小胞で発現します。、サブユニット: エフリン A2 と相互作用します。、組織特異性: 脾臓、リンパ節、胸腺、末梢血白血球、骨髄、軟骨、軟骨細胞、胎児肝臓で発現します。、

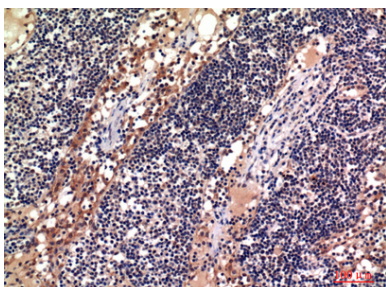
研究分野

アルツハイマー病、ヘリコバクター・ピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達

画像データ



CD156c 抗体を用いた K562 のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



パラフィン包埋ヒトリンパの免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された